

現状と課題

施設面

平成7年 開設時 6診療科150床スタート 職員数183名

医療需要の変化に併せて増築等実施し、機能充実を図り
平成30年4月現在、33診療科400床 職員数965名

- ◎施設の老朽化・狭隘化(病棟・手術室・診察室等)が課題
- ◎施設基準に適合しない箇所の対応を求められている
- ◎市民要望の高い人間ドックの受け入れが困難 等

医療情勢の変化

少子・高齢化が進展し、求められる医療が変化しつつある

長野県地域医療構想(平成29年3月策定)

- ・将来的に不足する回復期病床の確保
- ・在宅医療など患者の退院後の受け皿の充実
- ・在宅医療を担う医師や医療機関の負担の軽減

医療情勢が大きく変動する中、病院として将来を見据え、対応できる施設整備を検討する時期に至っている。

再整備の概要

病院運営の長期的な視点

- ①施設の老朽化や狭隘化の対応 (長寿化の対応)
- ②医療環境の変化への対応 (医療政策の対応)
- ③公立病院として市民要望への対応 (患者要望の対応)

再整備により、①長寿化を図り、②社会・医療情勢の変化、新たな医療構想や市の施策(YOBOU)に対応できる医療提供体制整備を行い③市民要望に応じていく必要がある

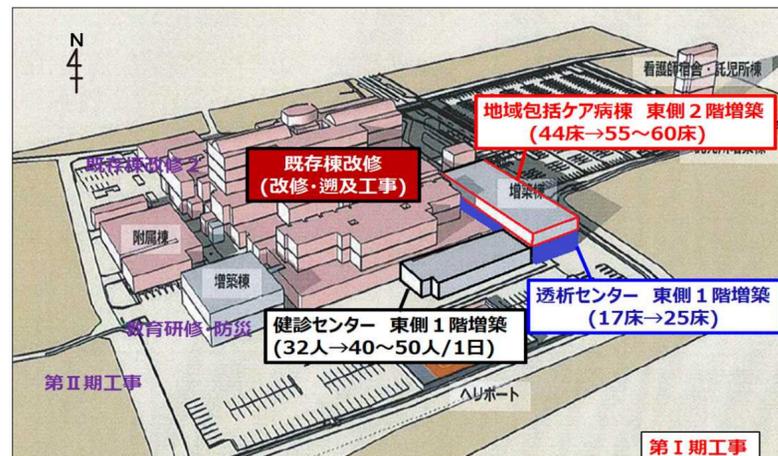
将来を見据えた、市民病院の再整備が必要

◎将来の病院の建て替えは、50年以上の長寿化を目指す中で、人口減少や疾病動向・医療資源等を踏まえて検討する。【※病院の耐用年数 39年】

再整備(第一期)の目的

- 地域医療構想・長野市医療政策(YOBOUの推進)への対応改修
地域包括ケア病棟(44床→55~60床)
健診センター(32人→40~50人/1日)
- 患者要望への対応改修
透析センター(17床→25床)
化学療法センター(20床→25~30床)
- 長寿化に向けた改修
既存棟1階(救急WS・救急C・地域医療連携室・厨房・情報ラウンジ・外来等)
既存棟2階(臨床検査部門・手術センター等)
耐震改修(エレベーター・エントランスホール天井)
既存病棟(病室・説明室・家族控室・スタッフ控室等)
- 職場環境の改善に向けた改修
執務・休憩・食事スペース等

再整備のイメージ図



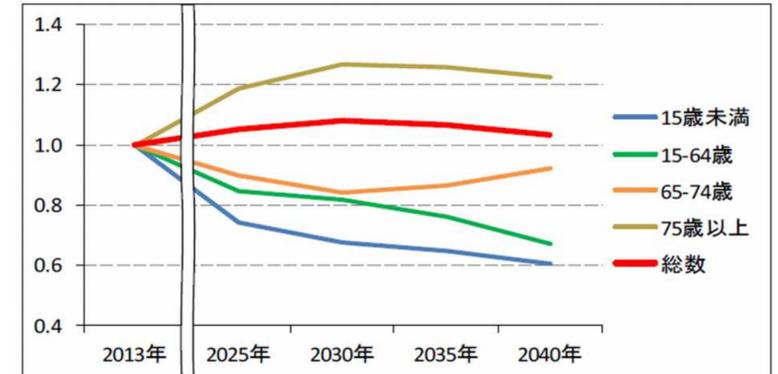
「地域包括ケア病棟」の新棟への移転・拡充

病床数	高度急性期・急性期機能	地域包括ケア病棟
	7対1病棟・重症病棟	44床
400床	356床	
病床数	高度急性期・急性期機能	回復期機能
	7対1病棟・重症病棟	地域包括ケア病棟
400床	340~345床	55~60床

7対1病棟から地域包括ケア病棟へ一部病床を転換して55~60床とするとともに、療養環境の整備を図り、地域医療構想に対応し、病棟の位置付けを急性期機能から回復期機能へと変更する。

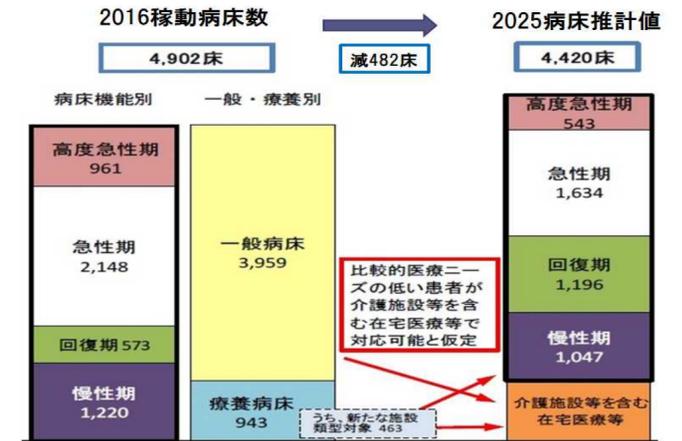
参考資料

①長野区域内に住所を有する入院患者数の推移の見込 2013(H25)年を1とした場合の変化率(長野構想区域)



資料：長野県地域医療構想「地域医療構想策定支援ツール」(厚労省)により作成

②2025年度の病床数の必要量の推計(長野構想区域)



* 長野構想区域は長野医療圏と同義 出典：長野県地域医療構想

再整備のスケジュール

	第2期中期計画					第3期
	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	
市議会・医師会等への説明 各種準備・調整	←					
基本設計						
実施設計・積算・確認申請	←					
施工者選定・入札						
着工~竣工(21月~23月)						← 新棟増築 →
						← 改修 →